

# 「明日の京都」ビジョン懇話会 文化・環境部会提案

中心テーマ	京都の持つ環境先進性、文化精神性を日本人の暮らしと心に取り戻すこと
-------	-----------------------------------

検討事項	部会議論からの「キーワード」	ミッション	成果目標	参考
<p>京都らしさを支える気候や環境を守るべく、「低炭素社会」を実現するための京都独自の先進的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2050年80%削減させ、低炭素経済・社会への移行のプロセス</li> <li>・ 循環型社会、生態系保存</li> <li>・ 温暖化による災害、一次産業、健康などの地域の被害・損失の最小化</li> <li>・ 京都議定書誕生の地、京都</li> <li>・ 化石エネルギーから再生可能エネルギーへの転換</li> <li>・ 社会経済システムや意識の転換</li>   <li>・ エコロジー型新産業システムづくり</li>   <li>・ 太陽光発電など各種技術の利用</li> <li>・ 地域の特性を生かし、住民参加による地域ごとにメリハリのある環境施策</li>   <li>・ 自動車に過度に依存しない交通体系の創出</li>   <li>・ 自然と共生する自然回帰型とハイテク駆使型の地域ごとの選択、組み合わせ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 京都の知恵と文化に根ざした低炭素社会の形成につながる価値観やライフスタイルを府民や観光客、学生等に浸透させること</li>   <li>・ 温室効果ガスの排出を最小限に抑える社会経済システムの構築への最初の10年とすること</li>   <li>・ 地域に適した再生可能エネルギーの十分な導入を進めること</li>   <li>・ 自動車利用の抑制と公共交通への利用転換を推進する交通体系とマネジメントを整備すること</li>   <li>・ CO<sub>2</sub>吸収源である森林の保全整備を進めること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全ての学校や地域で環境教育・学習とその実践が行われること</li> <li>・ 観光客や学生が滞在中に京都の生活文化や価値観、自然を体験・共感できること</li>   <li>・ 国内排出権取引、再生可能エネルギー固定価格買取制度導入などの必要な制度が国レベルで確立していること（国への働きかけ）</li> <li>・ 全ての家庭や企業で、省エネ・省資源行動が、経済的優位性をもって継続的に行われていること</li> <li>・ 大学、研究機関、企業等が有する世界的な環境技術・システムが開発されること</li> <li>・ 生産に必要な施設・機器の省エネ化や自然エネルギー利用が進展すること</li> <li>・ ウッドマイレージCO<sub>2</sub>認証制度の普及等により地産地消と流通の低炭素化を進めること</li>   <li>・ 太陽光発電を6万戸（約1割）に設置し、太陽光のまちなどが登場していること</li> <li>・ 太陽光・熱、小水力、バイオマスなど、地域資源を活かしたエネルギー自立型の地域が実現すること（北部、南部など）</li>   <li>・ 地域と連携したモビリティ・マネジメント等が府域の全市町村で展開されること</li> <li>・ 地域の交通環境を支える人材が5年間で120名程度養成されること</li> <li>・ 効果的なTDM施策等の実施により自動車分担率が低減されること</li>   <li>・ 「京都モデルフォレスト運動」など府民参加による森林づくりが進展すること （モデルフォレスト@年度末実績） ○大学、企業と連携した森づくり：20ヶ所 ○ボランティア団体数：58団体</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 打ち水、緑のカーテン等</li>   <li>・ 関連条例の改正、強化</li> <li>・ 新築公共建築物の低炭素化の徹底、既存建築物の補修（公営住宅を含む）</li> <li>・ 燃料電池、LED照明省エネ・低公害型機種を導入</li>   <li>・ 地元農林水産物の地域小売店・量販店での販売</li> <li>・ 農林水産物の直売</li> <li>・ 地元農林水産物の学校や病院、高齢者福祉施設等の給食利用</li>   <li>・ 農業用水路への小水力発電施設の設置</li> <li>・ 化石燃料から転換するためのバイオマスの利用</li> <li>・ 小規模水力発電の利用</li>   <li>・ 中山間地域におけるエネルギー自給モデルや都市型地域における歩いて暮らせるまちづくりなど、地域特性に根ざした政策を推進すべき</li>   <li>・ 間伐などの森林整備の推進</li> </ul>

検 討 事 項	部会議論からの「キーワード」	ミ ッ シ ョ ン	成 果 目 標	参 考
<p>京都の「もったいない」「しまつ」といった先人の知恵・価値観や、育んできた文化の大切さを再発見し、持続可能な産業や生活に活かす「循環型社会」（水循環を含む）を実現するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境を保全しながら経済も回る、足を知る「知足経営」</li> <li>・2050年時点で排出量を80%削減したとしても、経済は回り、環境も守られているという両立</li> <li>・省エネ、リサイクルなど身近な市民行動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都の知恵と文化の集積を再評価すること</li> <li>・資源やエネルギーの無駄を排除し、こころのゆたかさ、余裕を楽しむこと</li> <li>・事業活動や家庭における省資源化や資源の循環利用を促進すること</li> <li>・地域の資源を活用しながら、自然循環が可能な範囲での産業や消費生活を営むようにすること</li> <li>・農林水産業をより一層資源循環型に移行すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物について、分別収集の仕組みが浸透すること</li> <li>・資源ごとに最適な循環システムが構築されること</li> <li>・府内産木材や農水産物の地産地消のしくみが確立すること</li> <li>・木のある暮らしが定着すること。</li> <li>・地元産野菜や特産品の購入が習慣化すること</li> <li>・有機農業や環境にやさしい農業が普及・拡大すること</li> <li>・バイオマスの活用が進展すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家畜糞尿や食品加工残渣等の堆肥化</li> <li>・間伐材等のペレット・薪炭化</li> <li>・食品残渣の堆肥</li> <li>・家畜糞尿や食品残渣のバイオマス発電利用</li> </ul>
<p>四季折々の自然の変化を心や五感で体感し、人々の暮らしの中に季節感を取り戻すなど、自然や環境を大切にし、共生する風土づくり・人づくりのための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然と共生し、文化を育んできた京都</li> <li>・地域が大事にするものを、守り・発信し・子ども達に繋げる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然との共生を大切にするライフスタイルの拡がりを支援すること</li> <li>・生物多様性を保全すること</li> <li>・澄んだ空気、美しい川や海辺などの快適な環境を実現すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・府内各地において、自然と共生する里山や里海づくりの活動が展開されていること</li> <li>・府内各地において、希少種など地域固有の野生生物の保全活動が展開されていること</li> <li>・大気、水等の環境基準が達成されていること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中山間地域への定住を促進するため、医療、教育環境を整えとともに光ファイバー等の基盤整備を図るべき</li> </ul>
<p>生産活動をはじめ地域に住む人々の営みにより守られ、食料のみならず、きれいな水や空気を供給する「命の里」である農地や森林を、府民全体で守り・支えていくための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「命の里」、京都の美しい森はCO2の吸収源</li> <li>・里山、「命の里」といった理想とする地域を育み、体験する取組</li> <li>・都市と農村の交流から、農山村の文化が資源となり地域を支える「文化多様性」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農山漁村地域の存在を、府民自らが自身の生活に大きく関わっていることを理解できるようにすること</li> <li>・農山漁村地域を守り支えるための府民運動を展開すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市住民等が農林水産業や農山漁村地域のすばらしさや大切さを実感できるようになること</li> <li>・地域住民のみならず、農林水産関係団体、NPO、学校や都市住民等が参画して協働で行う農地や森林などの保全・再生活動が普及・拡大するようになること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農林漁業体験活動や農山漁村地域の祭礼・行事へ参加できる取組</li> <li>・都市と農山漁村とのデュアル生活の仕組み</li> </ul>

検 討 事 項	部会議論からの「キーワード」	ミ ッ シ ョ ン	成 果 目 標	参 考
<p>伝統文化、祭り、芸能、旬の食材、和装、日本建築など京都の文化に誇りを持ち、守り育て、次の世代に伝承していくための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>千年以上守り続けられている「権威」が京都の誇り</li> <li>他の文化を独自に自分たちのものにしてしまう京都文化のダイナミックさ「不易流行」</li> <li>伝統文化の継承には、今の生活様式・ニーズに合ったプラスαが必要</li> <li>伝統文化の稽古は人徳も学べる</li> <li>地域がアーティストを育てる</li> <li>「型」を大事にすることでアートが創出される</li> <li>消えてしまう芸術を残す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世代を超えた府民が京都文化を知ること</li> <li>府民の誰もが、文化活動すること</li> <li>世界から憧憬される京都の上質文化、文化財を未来により一層継承し、育成すること</li> <li>府民と芸術家が共感・共鳴して新たな文化芸術を創造すること</li> <li>地域に伝わる伝統文化の継承と発展を支援すること</li> <li>日本食の素晴らしさを広めること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>京都文化の神髄を誰もが身近に体感できるようになること</li> <li>府民の文化活動率 100%</li> <li>世界文化遺産、世界無形文化遺産の登録数が増大すること</li> <li>次の世代に影響力を与える文化芸術が生まれていること</li> <li>伝統文化の継承者が確実に確保されていること</li> <li>府民が、新鮮で生産者の顔が見える府内産農林水産物やその加工品が入手しやすくなること</li> <li>学校、福祉施設や企業食堂の給食での府内産農林水産物及びその加工品の利用量や利用率が向上すること</li> <li>府内産農林水産物やその加工品を優先的に扱う販売店・ブースが増えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>京都文化を学校の教育活動に取り入れる</li> <li>「地産地消」や「旬産旬食」の取組</li> </ul>
<p>人々の営みや伝統文化を映しながら京都の各地で守り育てられてきた景観などの地域資源を愛する心を育み、次世代に引き継いでいく方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「空の大きな街づくり」をキーワードとした景観を活かしたまちづくりを推進</li> <li>中山間地域では、棚田・里山の維持、伝統文化の継承が困難</li> <li>景観の視点からの文化・環境政策</li> <li>見えている景観と、見えていない景観をどうつなぐか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の伝統文化や人々の生業を活かした景観を守り育て、景観を活かしたまちづくりを推進すること</li> <li>中山間地域の生活基盤を整備し、地域振興を推進すること</li> <li>都市と農村やNPOと地域の交流を推進し、文化の多様性を図ること</li> </ul>		
<p>歴史遺産や文化、芸術・芸能、人文社会系の学術研究など、ポスト工業化社会で価値が高まる資源への投資を見直し、経済社会で有効活用する方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>京都府民だけでなく、文化は広域で考えるべき</li> <li>正規の芸術教育を受けていない芸術家の生み出すアウトサイダーアート</li> <li>一握りのエリートに限定しない、大衆や非専門家にまで拡大した限界芸術</li> <li>アーティストと社会の間の「と」や「間」を大事にし、関係性を築くアートマネジメント</li> <li>若者に伝統を伝えながら他方で魅力を感じさせる伝統文化のシステム化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の特色ある文化資源を相互に結びつけ、広域的観光資源にすること</li> <li>技術、意匠・古典等の知的・文化的資産を活かした製品やブランドを創造しつづけること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域に根付いた知的・文化的資産を活かした産業が興盛されるとともに、新しく生まれ出ていること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広域振興局毎に文化観光ルートマップ（古典ゆかり、文化財、伝承、伝統芸能、祭り）を作成</li> </ul>
<p>（文化と環境が融合した方策）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然と共生し、文化を育んできた京都</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>京都文化に受け継がれている自然と共生し、精神性豊かな価値観を国内外に発信すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境共生型文化スタイル（京都スタイル）が提唱、普及されること</li> </ul>	

## (参考資料)

### ■ 文化・環境部会の開催経過

	日時・場所	内容
第1回	平成21年6月16日(火) 10:00~12:00 府庁 西別館大会議室C	・専門部会の進め方、アウトプットについての確認 ・専門部会における検討事項についての確認
第2回	平成21年7月21日(火) 13:00~15:00 府庁 政策企画部会議室	・次のとおり、テーマに基づき、ゲストスピーカーを招聘し、議論 <u>①「環境分野」について</u> 内藤正明氏 (佛教大学社会学部教授・京都大学名誉教授、環境審議会委員、『環』の公共事業行動計画委員) <u>②「低炭素社会の実現」及び「環境との共生」について</u> 深町加津枝氏 (京都大学大学院地球環境学堂准教授、環境審議会委員、『環』の公共事業行動計画委員、京都府森林審議会委員、京都府農林水産試験研究機関のあり方検討委員会委員)
第3回	平成21年7月28日(火) 13:00~15:00 府庁 政策企画部会議室	・「 <u>京都文化・地域文化</u> 」「 <u>文化産業</u> 」をテーマにゲストスピーカーを招聘し、議論 小暮宣雄氏(京都橘大学現代ビジネス学部都市環境デザイン学科教授) 吉澤健吉氏(京都新聞総合研究所長)
第4回	平成21年9月11日(金) 10:00~12:00 府庁 政策企画部会議室	・第2回、第3回部会でのゲストスピーカーからのスピーチを踏まえ、事務局が作成した「文化・環境部会提案(案)」について、関係部局から説明後、意見交換

### ■ 第2回~第4回の会議概要

別添のとおり